

鮎漁解禁

5月1日、闘竜灘において、日本で一番早く鮎漁が解禁されました。

待ちわびた多くの釣りファンが早朝から岩場に陣取り、今年初の鮎釣りを満喫されました。

この日に合わせて放流された鮎200キログラム・約17,000匹は、例年より少しサイズが大きいそうで、釣りあげるときの手応えが一味違うとの声が多く聞かれました。

なお、日本一早い鮎解禁の由来は、江戸時代にこの地方の領主であった姫路藩の藩主に初物の鮎を届けるためであると伝えられています。



多くの釣り人であふれる闘竜灘 伝の助も鮎釣りにチャレンジ(左上)

花まつり・鮎まつりは、5月3日に五峰山光明寺と闘竜灘周辺で行われました。

花まつり

五峰山光明寺での花まつりには朝早くから多くの参拝客が訪れ、国指定の重要文化財・銅造如来坐像や日本一幅善導大師自画像、虚無僧行列を観覧して楽しめました。

鮎まつり

鮎まつりは、滝野東小学校・滝野南小学校の新1年生による稚鮎の体験放流からスタートし、特設ステージで和太鼓や吹奏楽の演奏、闘竜灘岩場でアーチェリーのアトラクション等が催されました。また、夜には恒例の花火大会も行われ、1,200発の打ち上げ花火、17基の仕掛け花火が5月の夜空を彩りました。



夜空を染める色とりどりの花火



新緑に染み入る尺八の音色



親子で花まつりを祝う



元気に泳いでいく鮎を笑顔で見守る小学生たち

鬼追踊

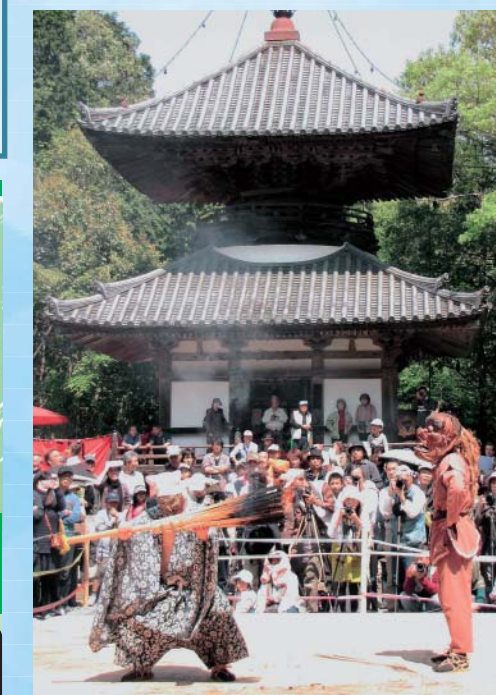
5月5日に、国宝・朝光寺で五穀豊穰・無病息災を祈願する鬼追踊が奉納されました。鬼追踊は室町時代から伝わるといわれる民俗舞踊で、県指定重要無形民俗文化財に指定されています。

昨年まで2年間は、本堂屋根の葺き替えのため特設舞台での奉納となっていましたが、昨年9月に工事は完了。3年振りに本堂前で奉納となり、会場は例年以上に多くのカメラマンや観光客で埋め尽くされました。

松明を持つ翁の舞から、赤、青、黒、黄色の鬼たちの舞。最後は4体全ての鬼が群舞し、その勇ましい姿に観客から大きな拍手と歓声を送られていました。



太刀、松明、斧、錫杖を振り回して舞い踊る鬼たち



松明が翁から鬼に受け継がれる



松明の煙で清められた餅がふるまわれる



大般若経転読法要(朝光寺本堂内)

平成25年 初夏の加東 Photo Album -フォトアルバム-

今年も加東は初夏の訪れを告げる様々な催しでにぎわいました。



太鼓を中心にして踊る(写真は大雨踊り)



祭事の無事を祈願



しっかり役割をはたして、自然と笑みがこぼれる

百石踊

雨乞いの神事として知られる県指定重要無形民俗文化財・秋津百石踊が、4月28日に秋津住吉神社で奉納されました。

元々は干ばつ時にのみ奉納される踊りでしたが、伝統文化の保存と後世への継承を目的に、一昨年から毎年この時期に奉納されています。

踊りには、心棒打(しんぼうち)、太鼓打(たいこうち)、羯鼓打(かっこうち)、花笠、地歌、踊り子等、様々な役割があり、昔は地元の成人男性しか参加できませんでした。現在は羯鼓打、花笠に地区内の子ども、踊り子に地区内の女性が参加されています。

羯鼓打として、これまで3年間の奉納に参加してきた堀田敬将さんは今年小学校6年生。来年は役割を下級生に引き継がれるとのこと、「これまでしっかりやってきました。次の子にも真剣に、元気よくやってほしいです」と話してくれました。